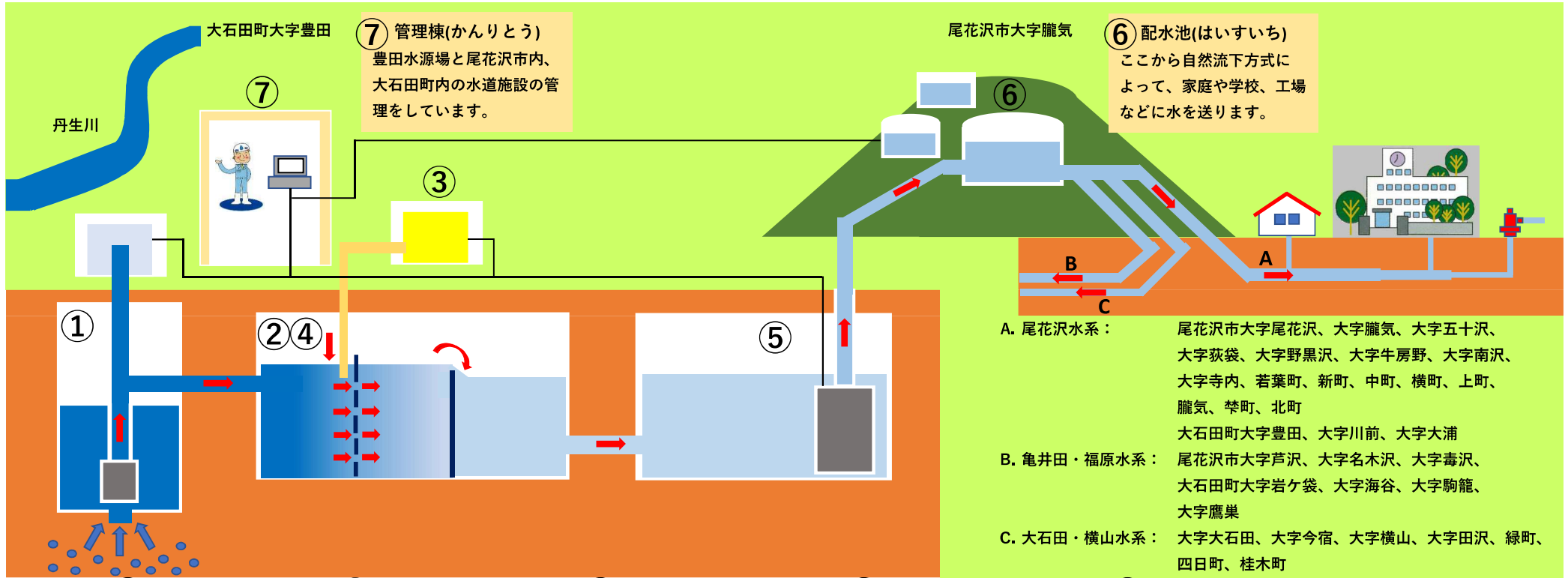


水道の水ができるまで(水源場のしくみ)



⑦ 管理棟(かんりとう)
豊田水源場と尾花沢市内、大石田町内の水道施設の管理をしています。

⑥ 配水池(はいすいち)
ここから自然流下方式によって、家庭や学校、工場などに水を送ります。

- A. 尾花沢水系： 尾花沢市大字尾花沢、大字臈気、大字五十沢、大字荻袋、大字野黒沢、大字牛房野、大字南沢、大字寺内、若葉町、新町、中町、横町、上町、臈気、榎町、北町
大石田町大字豊田、大字川前、大字大浦
- B. 亀井田・福原水系： 尾花沢市大字芦沢、大字名木沢、大字壽沢、大石田町大字岩ヶ袋、大字海谷、大字駒籠、大字鷹巣
- C. 大石田・横山水系： 大字大石田、大字今宿、大字横山、大字田沢、緑町、四日町、桂木町

① 取水井戸(しゅすいいど)
深井戸(地下50m)2箇所
浅井戸(地下10m)1箇所から
ポンプで地下水をくみ上げ
ます。

② 着水井(ちやくすいせい)
くみ上げた地下水は、いっ
たん着水井へ送られ、ここ
で細かい砂を落とします。

③ 滅菌室(めつきんしつ)
塩素混和池へ送られてきた
水に、塩素を注入し、殺菌
消毒します。

④ 塩素混和池(えんそこんわち)
取水井戸より運ばれた水に塩素を注
入します。

⑤ ポンプ井(ぼんぷせい)
ポンプで圧力をかけ、配水
池へ送ります。

尾花沢市と大石田町の水道のことについて

上水道はいつごろ始まったのかな？なぜできたのかな？

尾花沢と大石田に水道の事業を始めたのは、昭和42年(1967年)です。水道ができる前はみなさんの家に井戸があって、その水をくみ上げて使っていたため、赤痢(せきり)などの病気がでた場合、井戸水からみなさんに感染してしまいます。そのために、安全でおいしい水を飲めるように上水道事業ができたのです。(上水道事業とは計画給水人口が5000人を超える事業をいいます。計画給水人口5000人以下を簡易水道事業といいます。)

水道はどうやってみなさんの家とつながっているのかな？

水を作るところが水源場です。これは大石田町の豊田地区にあり、井戸①が3つあります。その井戸からくみ上げた地下水は殺菌消毒③④してから、尾花沢市の臈気地区にある盃山(さかざきやま)⑥の上まで大きなポンプ⑤で送ります。ここが配水池(はいすいち)⑥です。山の上の配水池から低い地域のみなさんの家へ水を送ります。

水源場からみなさんの家まで水道管がつながっています。その水道管は道路の下にうまっています。電気や電話線は電柱で高い所をとっていますが、もし水道管が電気や電話線のように地上にあったら、夏は水があたたまってお湯が出てしまいます。そして、冬になれば水道管の水がおおって使えなくなってしまいます。そのため、水道管は夏も冬も温度が変わりづらい土の中にうまっています。